

令和2年6月30(火)

書面による開催

<協議会委員参加者>

田中 恒子 (地域教育相談員)  
西田 芳正 (大阪府立大学人間社会学部教授)  
仲島 浩 (和泉市立和泉中学校長)  
山野 正広 (和泉市総務部人権・男女参画室長) 運営協議会副会長  
山下 真理 (PTA 会長) 運営協議会会長

<送付資料等>

- 1 第1回学校運営協議会 について書面による開催のお知らせ
- 2 本年度の協議会委員 → 本年度会長・副会長の承認
- 3 令和2年度 学校経営計画
- 4 令和2年度 (2020年度) 生徒指導重点目標
- 5 令和元年度 (2019年度) 進路指導のまとめ 1 就職指導 2 進学指導
- 6 令和元年度 学籍の異動について

<ご意見>

○学校経営計画について

- ・新型コロナウイルス影響で、これからさまざまな変化に対応するためにも「めざす学校像」の4つのはぐくみは原点だと思うので、力を入れていってほしいと思います。
- ・現状に対する分析をもとにした戦略、方策の策定、という部分が弱ように感じる。
- ・昨年度遅刻が急増していることに対して、その背景にある要因は何なのか。どのような生徒に遅刻が多くなっているのか、など、問題状況をもたらしている要因を探る工夫が必要。
- ・教師の指導に「納得できない」、授業や学校行事・学級が「楽しくない」と感じているのはどのような生徒なのか、「思いをくみとってくれる教師がいない」という回答が多いのはどの学年なのか、といった観点での分析ができるように、生徒の属性項目を加味した調査の工夫が必要では。
- ・部活の活性化は、多方面にわたって好影響をもたらす重要なテーマ。活動の内容(興味を持てるもので、短時間の参加が可能なものなど)を工夫した部活の創設を働きかけることや、競技系の部活の一部に人的・物的な「テコ入れ」をすることで成績を上げ、部活参加者以外の生徒にも好影響をもたら

すことも考えられるのでは。（「教師の働き方」の問題や「教師間の協調性の阻害要因」となるなどの弊害も予想できますが）。

○本年度 生徒指導の重点目標について

- ・生徒に寄り添う生徒指導を大切にしているところはよい。
- ・長く休校が続き、生徒一人一人が学校に通えることのありがたさを感じて、意識を変えてくれたらと思います。
- ・少し、厳しくなりましたか。生徒との対立にならないよう注意をお願いします。
- ・先生方のご苦勞が伝わってくる内容。
- ・「アカンもんはアカン」と注意する際に、「何故アカンのか」を説明する論理を先生方の間で共有することはできているのかどうか気になる。

○2019年度 進路指導について

- ・昨年度の「進路未定」者についてはどのような状況になっているのでしょうか。
- ・「進路」の総括的な表には、当該学年の新入学時の生徒数から、進級時、さらに卒業時、という整理をして各年度で比較することの必要性を感じます。（原級留置、編・転入学などがあり厳密には数字を出せないのかもしれませんが。）
- ・希望する進路実現に向けよろしくをお願いします。
- ・今年度の大学進学の実績は、生徒にも励みになったと思います。

○学籍異動について

- ・1年生の退学者が多いのが気になります。入学してから、大変な生徒が増えたのでは。
- ・例年一定数の人数が転退学しているようだが、その理由（実際のところの）やその後の情報について知りたい。
- ・通信制や単位制の学校を「学びの選択肢が増えた」と評価してよいものか、気がかり。

○その他

- ・長期の休みが生活面にいろいろな問題状況をもたらしていることが予想される。親の困窮、生徒自身アルバイト職を失うなど、コロナ禍の影響が大きく表れており、今後もさらに深刻になってくるのではないかと（特に進路面）と、たいへん気がかり。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症のため例年と事情が異なるので、教育現場は大変だと思います。経済的理由で進路に影響がでる生徒も多いのではと心配しています。